

# 2025年度 教科シラバス

## 中学1年

### 目次

国語 (S 特選) . . . . .	2
国語 (特選) . . . . .	3
社会 (S 特選) . . . . .	4
社会 (特選) . . . . .	5
数学 (S 特選) . . . . .	6
数学 (特選) . . . . .	7
理科 (S 特選) . . . . .	8
理科 (特選) . . . . .	9
音楽 . . . . .	10
美術 . . . . .	11
保健体育 . . . . .	12
技術 . . . . .	13
家庭 . . . . .	14
英語 (S 特選) . . . . .	15
英語 (特選) . . . . .	16
英語 $\alpha$ クラス . . . . .	17
English $\alpha$ class . . . . .	18

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
中学1年	国語	国語① 国語②	S特選	5	『伝え合う言葉 中学国語Ⅰ』 『つまづかない！文法の学習』 『基礎の学習』『国語便覧』 『級別漢字クラブ』『新中学問題集』

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<ol style="list-style-type: none"> <li>小説・評論・随筆など様々なジャンルの文章に親しみ、読解力を養う。</li> <li>自分の考えをわかりやすく人に伝えることができるよう、表現力を磨く。</li> <li>ひらがな・漢字の成り立ちを知り、丁寧に文字を書けるようにする。</li> <li>語彙を増やし、作品世界をより深く理解できるようにする。</li> <li>古典の世界に親しむ。</li> <li>日本語の文法構造を理解する。</li> </ol>	<p>【日々の学習について】シラバスやTQノートを参照し、単元の予習・復習を行うこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>音読したうえで『基礎の学習』の該当ページを解き、新出漢字や語句の意味を理解する。(予習)</li> <li>「国語便覧」等を利用して、単元の背景への理解を深める。(予習)</li> <li>『基礎の学習』の該当ページを解き、単元の理解を深める。(復習)</li> </ol> <p>【小テストについて】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>漢字・文法・古語・語彙などの知識問題等に関して、適宜小テストを実施する。</li> </ol> <p>【課題について】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>主に、長期休暇中に『新中学問題集』を課す。</li> <li>上記以外にも課された課題は必ず提出すること。</li> </ol>

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	<ol style="list-style-type: none"> <li>【現代文】「ふしぎ」「河童と蛙」「自分の脳を知っていますか」 【読書課題】「脳には妙なクセがある」</li> <li>【文法】言葉の単位・単語の種類 【古典】「昔話と古典」※古典の暗唱・暗写を含む</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>【現代文】「森には魔法使いがいる」「オツベルと象」 【読書課題】「注文の多い料理店」「銀河鉄道の夜」</li> <li>【文法】文の組み立て 【古典】「物語の始まり～竹取物語」※古典の暗唱・暗写を含む</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>【現代文】「子どもの権利」「ベンチ」 【読書課題】「あゝころはフリードリヒがいた」</li> <li>【文法】名詞・代名詞・副詞・連体詞・接続詞・感動詞 【古典】漢文基礎※古典の暗唱・暗写を含む</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>【現代文】「言葉がつなぐ世界遺産」「蜘蛛の糸」 【読書課題】「トロッコ」「鼻」「杜子春」</li> <li>【文法】形容詞・形容動詞 【古典】「故事成語～中国の名言」※古典の暗唱・暗写を含む</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>【現代文】「持続可能な未来を創るために」「少年の日の思い出」 【読書課題】「遠き落日(上)」</li> <li>【文法】動詞 【古典】古文演習※古典の暗唱・暗写を含む</li> </ol>

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	<ol style="list-style-type: none"> <li>社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けている。(現代文分野・古典分野・口語文法分野)</li> <li>日本の言語文化に対する理解を深めることができている。(現代文分野・口語文法分野)</li> <li>日本の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができている。(古典分野)</li> <li>読書に親しみ自己を向上させようという意識が見られる。(現代文分野)</li> </ol>	授業内小テスト(漢字・語句・口語文法・現代文単語・古文単語・古典文法・漢文句形・漢文語彙等) 定期考査
思考力 判断力 表現力	<ol style="list-style-type: none"> <li>論理的に考える力が深く共感したり豊かに想像したりする力が伸長している。(現代文分野・古典分野)</li> <li>他者(作品)との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができている。(現代文分野・古典分野)</li> <li>論理的、批判的に考える力が伸長している。(現代文分野・古典分野)</li> <li>創造的に考える力を養うことができている。(現代文分野・古典分野)</li> <li>古典を通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができている。(古典分野)</li> <li>言語を正しく運用できている。(口語文法分野)</li> </ol>	定期考査
主体的に学習に取り組む態度	<ol style="list-style-type: none"> <li>言葉がもつ価値に対する認識を深めようとしている。</li> <li>読書に親しみ自己を向上させようという意識が見られる。</li> <li>日本の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉をとおして他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。</li> </ol>	課題(読書に関するもの含む) グループワークまたは個人ワーク

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
中学1年	国語	国語① 国語②	特選	5	『伝え合う言葉 中学国語Ⅰ』 『つまづかない！文法の学習』 『基礎の学習』『国語便覧』 『級別漢字クラブ』『新中学問題集』

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<ol style="list-style-type: none"> <li>小説・評論・随筆など様々なジャンルの文章に親しみ、読解力を養う。</li> <li>自分の考えをわかりやすく人に伝えることができるよう、表現力を磨く。</li> <li>ひらがな・漢字の成り立ちを知り、丁寧に文字を書けるようにする。</li> <li>語彙を増やし、作品世界をより深く理解できるようにする。</li> <li>古典の世界に親しむ。</li> <li>日本語の文法構造を理解する。</li> </ol>	<p>【日々の学習について】シラバスやTQノートを参照し、単元の予習・復習を行うこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>音読したうえで『基礎の学習』の該当ページを解き、新出漢字や語句の意味を理解する。(予習)</li> <li>「国語便覧」等を利用して、単元の背景への理解を深める。(予習)</li> <li>『基礎の学習』の該当ページを解き、単元の理解を深める。(復習)</li> </ol> <p>【小テストについて】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>漢字・文法・古語・語彙などの知識問題等に関して、適宜小テストを実施する。</li> </ol> <p>【課題について】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>主に、長期休暇中に『新中学問題集』を課す。</li> <li>上記以外にも課された課題は必ず提出すること。</li> </ol>

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	①【現代文】「ふしぎ」「河童と蛙」「自分の脳を知っていますか」 【読書課題】「脳には妙なクセがある」 ②【文法】言葉の単位・単語の種類 【古典】「昔話と古典」※古典の暗唱・暗写を含む	①【現代文】「森には魔法使いがいる」「オツベルと象」 【読書課題】「注文の多い料理店」「銀河鉄道の夜」 ②【文法】文の組み立て 【古典】「物語の始まり～竹取物語」※古典の暗唱・暗写を含む	①【現代文】「子どもの権利」「ベンチ」 【読書課題】「あゝころはフリードリヒがいた」 ②【文法】名詞・代名詞・副詞・連体詞・接続詞・感動詞 【古典】漢文基礎※古典の暗唱・暗写を含む	①【現代文】「言葉がつなぐ世界遺産」「蜘蛛の糸」 【読書課題】「トロッコ」「鼻」「杜子春」 ②【文法】形容詞・形容動詞 【古典】「故事成語～中国の名言」※古典の暗唱・暗写を含む	①【現代文】「持続可能な未来を創るために」「少年の日の思い出」 【読書課題】「遠き落日(上)」 ②【文法】動詞 【古典】古文演習※古典の暗唱・暗写を含む

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	①社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けている。(現代文分野・古典分野・口語文法分野) ②日本の言語文化に対する理解を深めることができている。(現代文分野・口語文法分野) ③日本の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができている。(古典分野) ④読書に親しみ自己を向上させようという意識が見られる。(現代文分野)	授業内小テスト(漢字・語句・口語文法・現代文単語・古文単語・古典文法・漢文句形・漢文語彙等) 定期考査
思考力 判断力 表現力	①論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力が伸長している。(現代文分野・古典分野) ②他者(作品)との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。(現代文分野・古典分野) ③論理的、批判的に考える力が伸長している。(現代文分野・古典分野) ④創造的に考える力を養うことができている。(現代文分野・古典分野) ⑤古典を通して先人のものの見方、感じ方、考え方の関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。(古典分野) ⑥言語を正しく運用できている。(口語文法分野)	定期考査
主体的に学習に取り組む態度	①言葉がもつ価値に対する認識を深めようとしている。 ②読書に親しみ自己を向上させようという意識が見られる。 ③日本の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉をとおして他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。	課題(読書に関するもの含む) グループワークまたは個人ワーク

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
中学1年	社会	地理 歴史	S特選	4	<共通> 『mana.think@』 (帝国書院) <地理> 『中学生の地理』 (帝国書院) 『中学校社会科地図』 (帝国書院) <歴史> 『中学歴史 日本と世界 改訂版』 (山川出版社) 『つながる歴史(東京都版)』 (浜島書店)

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<地理> 社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを目指す。また、noblesse obligeの学校の生徒として相応しい教養を身につける。  <歴史> 広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、わが国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者としての必要な公民的資質の基礎を養うことを教科目標とする。	<地理> ①予習：事前に教科書などを読んで、学習内容の概要を把握する。 ②授業：単元ごとの小テストで知識の定着の確認を行う。また、各地域ごとに主題を設定し、協働的な学習に取り組む。  <歴史> ①予習：教科書を読んだり動画を視聴したりして、学習内容の理解と重要事項の知識を入れる。 ②授業：テストを実施し、学習に必要な準備が整っているか計測する。単元目標を明示し、単元の最後に行う問い（ゴール）を提示。講義型授業→問いを個人・ペアで解答→ルーブリック評価。

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	<地理> 世界の姿 人々の生活と環境 <歴史> 原始から弥生時代	<地理> 世界の諸地域(アジア州)  <歴史> 古墳時代から奈良時代	<地理> 世界の諸地域(ヨーロッパ州・アフリカ州)  <歴史> 平安時代	<地理> 世界の諸地域(南アメリカ州)  <歴史> 鎌倉時代から室町時代	<地理> 世界の諸地域(北アメリカ州・オセアニア州)  <歴史> 中世ヨーロッパから江戸時代前半

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	<地理> 我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解しているとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 <歴史> 我が国の歴史の大きな流れと各時代の特色などを我が国の歴史と関連のある世界の歴史を背景に理解し、その知識を身に付けている。	<地理> 定期考査における知識問題 単元テストなど <歴史> 1. 予習確認テスト 2. 定期考査の知識問題
思考力 判断力 表現力	<地理> 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。 <歴史> 歴史的事象から課題を見だし、我が国の歴史の大きな流れと各時代の特色などを多面的・多角的に考察し、公正に判断する。	<地理> 定期考査における思考力・判断力・表現力を問う問題 問題集の取り組み状況など <歴史> 1. 単元ごとに課される問い 2. 定期考査の思考力・判断力・表現力を問う問題
主体的に学習に取り組む態度	<地理> 日本や世界の地域に関わる諸事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究・解決しようとしている。 <歴史> 歴史的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、広い視野にたつて国民の自覚をもとうとする。また様々な資料を収集し、情報を適切に選択して活用するとともに、考察した過程や結果をまとめ、発表や討論などを行ったりする。	<地理> 個人ワーク・グループワークへの取り組み状況 ノートにおける自主学習姿勢など <歴史> 1. 問いに対し粘り強く取り組む姿勢 2. 問いに対し他者と協働して取り組む姿勢 3. ルーブリック評価

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
中学1年	社会	地理 歴史	特選	4	<共通> 『mana.think@』(帝国書院) <地理> 『中学生の地理』(帝国書院) 『中学校社会科地図』(帝国書院) <歴史> 『中学歴史 日本と世界 改訂版』(山川出版社) 『つながる歴史(東京都版)』(浜島書店)

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<地理> 社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを目指す。また、noblesse obligeの学校の生徒として相応しい教養を身につける。  <歴史> 広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、わが国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者としての必要な公的資質の基礎を養うことを教科目標とする。	<地理> ①予習：事前に教科書などを読んで、学習内容の概要を把握する。 ②授業：単元ごとの小テストで知識の定着の確認を行う。また、各地域ごとに主題を設定し、協働的な学習に取り組む。  <歴史> ①予習：教科書を読んだり動画を視聴したりして、学習内容の理解と重要事項の知識を入れる。 ②授業：テストを実施し、学習に必要な準備が整っているか計測する。単元目標を明示し、単元の最後に行う問い(ゴール)を提示。講義型授業→問いを個人・ペアで解答→ルーブリック評価。

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	<地理> 世界の姿 人々の生活と環境 <歴史> 原始から弥生時代	<地理> 世界の諸地域(アジア州)  <歴史> 古墳時代から奈良時代	<地理> 世界の諸地域(ヨーロッパ州・アフリカ州)  <歴史> 平安時代	<地理> 世界の諸地域(南アメリカ州)  <歴史> 鎌倉時代から室町時代	<地理> 世界の諸地域(北アメリカ州・オセアニア州)  <歴史> 中世ヨーロッパから江戸時代前半

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	<地理> 我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解しているとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 <歴史> 我が国の歴史の大きな流れと各時代の特色などを我が国の歴史と関連のある世界の歴史を背景に理解し、その知識を身に付けている。	<地理> 定期考査における知識問題 単元テストなど <歴史> 1. 予習確認テスト 2. 定期考査の知識問題
思考力 判断力 表現力	<地理> 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。 <歴史> 歴史的事象から課題を見だし、我が国の歴史の大きな流れと各時代の特色などを多面的・多角的に考察し、公正に判断する。	<地理> 定期考査における思考力・判断力・表現力を問う問題 問題集の取り組み状況など <歴史> 1. 単元ごとに課される問い 2. 定期考査の思考力・判断力・表現力を問う問題
主体的に学習に取り組む態度	<地理> 日本や世界の地域に関わる諸事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究・解決しようとしている。 <歴史> 歴史的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、広い視野にたつて国民の自覚をもとうとする。また様々な資料を収集し、情報を適切に選択して活用するとともに、考察した過程や結果をまとめ、発表や討論などを行ったりする。	<地理> 個人ワーク・グループワークへの取り組み状況 ノートにおける自主学習姿勢など <歴史> 1. 問いに対し粘り強く取り組む姿勢 2. 問いに対し他者と協働して取り組む姿勢 3. ルーブリック評価

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
中学1年	数学	数学① 数学②	S特選	5	体系数学1 代数編 体系数学2 代数編 体系数学1 幾何編

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>【体系数学 代数編】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正負の数 ・文字式 ・方程式 ・不等式 ・比例・反比例</li> <li>・1次関数・データの活用</li> </ul> <p>【体系数学 幾何編】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平面図形 ・空間図形 ・図形の性質と合同</li> </ul>	<p>次のサイクルで授業を展開する。</p> <p>授業での解説(例題等) ⇒ 問題演習 ⇒ 小テスト・宿題</p> <p>教科書の内容を読む程度でも構わないので、授業前に予習をしておくこと。予習をした上で授業を聞いた方が、効率よく学習できる。そして、授業後に必ず復習すること。特に授業時に理解できたことは、定着しないまま忘れる可能性がある。そのことを踏まえて、問題を解くことで定着度の確認をすること。</p>

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	<p>【数学①】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「正負の数」</li> </ul> <p>【数学②】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「平面図形」</li> </ul>	<p>【数学①】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「文字式」</li> </ul> <p>【数学②】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「平面図形」</li> <li>・「空間図形」</li> </ul>	<p>【数学①】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「方程式」</li> </ul> <p>【数学②】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「空間図形」</li> <li>・「図形の性質と合同」</li> </ul>	<p>【数学①】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「不等式」</li> <li>・「比例・反比例」</li> </ul> <p>【数学②】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「図形の性質と合同」</li> <li>・「三角形と四角形」</li> </ul>	<p>【数学①】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「1次関数」</li> <li>・「データの活用」</li> </ul> <p>【数学②】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「三角形と四角形」</li> </ul>

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各項目において基本的な計算や性質を理解することができる。</li> <li>・定義、定理の意味を理解することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期テスト(基本問題)</li> <li>・小テスト(基本問題)等</li> </ul>
思考力 判断力 表現力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本事項を理解し、それを利用して、文章題などの解くことができる。</li> <li>・比例、反比例のグラフを正確に書くことができる。</li> <li>・証明問題を解くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期テスト(応用問題)</li> <li>・小テスト(応用問題)など</li> </ul>
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習、授業、復習の基本サイクルを確立し、小テストや宿題において、理解が深まっていくような学習ができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿題</li> <li>・小テストなど</li> </ul>

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
中学1年	数学	数学① 数学②	特選	5	体系数学1 代数編 体系数学2 代数編 体系数学1 幾何編

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>【体系数学 代数編】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正負の数 ・文字式 ・方程式 ・不等式 ・比例・反比例</li> <li>・1次関数・データの活用</li> </ul> <p>【体系数学 幾何編】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平面図形 ・空間図形 ・図形の性質と合同</li> </ul>	<p>次のサイクルで授業を展開する。</p> <p>授業での解説(例題等) ⇒ 問題演習 ⇒ 小テスト・宿題</p> <p>教科書の内容を読む程度でも構わないので、授業前に予習をしておくこと。予習をした上で授業を聞いた方が、効率よく学習できる。そして、授業後に必ず復習すること。特に授業時に理解できたことは、定着しないまま忘れる可能性がある。そのことを踏まえて、問題を解くことで定着度の確認をすること。</p>

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	<p>【数学①】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「正負の数」</li> </ul> <p>【数学②】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「平面図形」</li> </ul>	<p>【数学①】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「文字式」</li> </ul> <p>【数学②】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「平面図形」</li> <li>・「空間図形」</li> </ul>	<p>【数学①】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「方程式」</li> </ul> <p>【数学②】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「空間図形」</li> <li>・「図形の性質と合同」</li> </ul>	<p>【数学①】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「不等式」</li> <li>・「比例・反比例」</li> </ul> <p>【数学②】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「図形の性質と合同」</li> <li>・「三角形と四角形」</li> </ul>	<p>【数学①】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「1次関数」</li> <li>・「データの活用」</li> </ul> <p>【数学②】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「三角形と四角形」</li> </ul>

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各項目において基本的な計算や性質を理解することができる。</li> <li>・定義、定理の意味を理解することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期テスト(基本問題)</li> <li>・小テスト(基本問題)など</li> </ul>
思考力 判断力 表現力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本事項を理解し、それを利用して、文章題などの解くことができる。</li> <li>・比例、反比例のグラフを正確に書くことができる。</li> <li>・証明問題を解くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期テスト(応用問題)</li> <li>・小テスト(応用問題)など</li> </ul>
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習、授業、復習の基本サイクルを確立し、小テストや宿題において、理解が深まっていくような学習ができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿題</li> <li>・小テストなど</li> </ul>

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
中学1年	理科	理科① 理科②	S特選	4	理科の世界 1年 (大日本図書) 中学の生物、中学の物理 (教育開発出版) 実験プリント、実験ノート

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>【概要】1分野と2分野を同時に学習します。1分野では、不思議な現象を示す「光」や「音」、「力」などの物理現象には、どのような性質があるのかを学びます。2分野では、植物のからだのしくみ・分類から学習をはじめ、動物の体の仕組み、さらに生物同士のつながりを、身近な自然現象や観察を交えて学びます。</p> <p>【目標】</p> <p>①自然に親しみ、自然を学ぶおもしろさを味わい、興味・関心を広げる。 ②観察・実験の基本操作を学び、科学的に調べる方法を身につけると同時に、それらの過程や結果をまとめる能力を養う。</p>	<p>週4時間の理科の時間は、1分野2時間、2分野2時間に分かれ、それぞれがおよそ次のようなサイクルで進みます。</p> <p>① 観察・実験を行い（ビデオなどの視聴覚教材を使うこともある）、自然の事物や現象について、まず体験的に学習する。 ② 観察・実験の結果やわかったことは、プリントや実験ノートにまとめる。【宿題】 ③ プリントにまとめた内容は、グループごとに発表する機会をもうけることもある。 ④ 教科書や問題集を使い、学習テーマへの理解を深める。</p>

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	<p>【1分野】光の反射・屈折、全反射、光のさまざまな現象、凸レンズによる像</p> <p>【2分野】観察手法、器具の扱い、花のつくりと働き</p>	<p>【1分野】音の性質、力の大きさとはばねの伸び、圧力、大気圧、水圧、浮力</p> <p>【2分野】植物のからだのつくり—葉、茎、根</p>	<p>【1分野】回路の電流と電圧、オームの法則、抵抗の接続、豆電球の明るさ</p> <p>【2分野】細胞の構造と機能—細胞小器官、細胞分裂の過程</p>	<p>【1分野】電流による発熱量、静電気、陰極線、磁石の周りの磁界、電流による磁界、電磁力、電磁誘導</p> <p>【2分野】酵素のはたらき、光合成、呼吸</p>	<p>【1分野】力のつり合い、力の合成と分解、様々な運動の記録、力学的エネルギー</p> <p>【2分野】骨格筋、心臓、血管、肺、眼球</p>

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	<p>◇自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。</p> <p>◇観察、実験の基本操作を習得するとともに、自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果及びそこから導き出した自らの考えを的確に表現する。</p>	<p>◇定期考査の素点の一部</p> <p>◇実験・実習・観察後の提出課題の評価</p>
思考力判断力表現力	<p>◇自然の事物・現象の中に問題を見だし、目的意識をもって観察、実験などを行うとともに、事象を実証、論理的に考えたり、分析的、総合的に考察したりして問題を解決する。</p>	<p>◇定期考査の素点の一部</p> <p>◇実験・実習・観察後の提出課題の評価</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>◇自然の事物・現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、事象を人間生活とのかかわりで見ようとする。</p>	<p>◇実験・実習・観察後の提出課題の評価</p>



学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
中学1年	理科	理科① 理科②	特選	4	理科の世界 1年 (大日本図書) 中学の生物、中学の物理 (教育開発出版) 実験プリント、実験ノート



教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>【概要】1分野と2分野を同時に学習します。1分野では、不思議な現象を示す「光」や「音」、「力」などの物理現象には、どのような性質があるのかを学びます。2分野では、植物のからだのしくみ・分類から学習をはじめ、動物の体の仕組み、さらに生物同士のつながりを、身近な自然現象や観察を交えて学びます。</p> <p>【目標】</p> <p>①自然に親しみ、自然を学ぶおもしろさを味わい、興味・関心を広げる。</p> <p>②観察・実験の基本操作を学び、科学的に調べる方法を身につけると同時に、それらの過程や結果をまとめる能力を養う。</p>	<p>週4時間の理科の時間は、1分野2時間、2分野2時間に分かれ、それぞれがおよそ次のようなサイクルで進みます。</p> <p>① 観察・実験を行い（ビデオなどの視聴覚教材を使うこともある）、自然の事物や現象について、まず体験的に学習する。</p> <p>② 観察・実験の結果やわかったことは、プリントや実験ノートにまとめる。【宿題】</p> <p>③ プリントにまとめた内容は、グループごとに発表する機会をもうけることもある。</p> <p>④ 教科書や問題集を使い、学習テーマへの理解を深める。</p>

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	<p>【1分野】光の反射・屈折、全反射、光のさまざまな現象、凸レンズによる像</p> <p>【2分野】観察手法、器具の扱い、花のつくりと働き</p>	<p>【1分野】音の性質、力の大きさとはばねの伸び、圧力、大気圧、水圧、浮力</p> <p>【2分野】植物のからだのつくり—葉、茎、根</p>	<p>【1分野】回路の電流と電圧、オームの法則、抵抗の接続、豆電球の明るさ</p> <p>【2分野】細胞の構造と機能—細胞小器官、細胞分裂の過程</p>	<p>【1分野】電流による発熱量、静電気、陰極線、磁石の周りの磁界、電流による磁界、電磁力、電磁誘導</p> <p>【2分野】酵素のはたらき、光合成、呼吸</p>	<p>【1分野】力のつり合い、力の合成と分解、様々な運動の記録、力学的エネルギー</p> <p>【2分野】骨格筋、心臓、血管、肺、眼球</p>

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	<p>◇自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。</p> <p>◇観察、実験の基本操作を習得するとともに、自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果及びそこから導き出した自らの考えを的確に表現する。</p>	<p>◇定期考査の素点の一部</p> <p>◇実験・実習・観察後の提出課題の評価</p>
思考力判断力表現力	<p>◇自然の事物・現象の中に問題を見だし、目的意識をもって観察、実験などを行うとともに、事象を実証、論理的に考えたり、分析的、総合的に考察したりして問題を解決する。</p>	<p>◇定期考査の素点の一部</p> <p>◇実験・実習・観察後の提出課題の評価</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>◇自然の事物・現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、事象を人間生活とのかかわりで見ようとする。</p>	<p>◇実験・実習・観察後の提出課題の評価</p>

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
中学1年	音楽		S特選 特選	1	中学生の音楽 1 ・ 中学器楽（教育芸術社） 音楽鑑賞資料集（正進社）

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>「体全体で『音』を『聴き』・『歌い』・『表現する』こと」の楽しさを体験する。そのことから技術を磨くことの必要性を理解し、自らさらに良いものを創り上げてゆく姿勢を養う。</p> <p>① 歌唱・器楽・鑑賞・・・それぞれに於いて、知識以上に「楽しみながら音楽すること」に重点をおきます。そして、「目には見えなくても、音楽のなかに存在する何か」を個々の感性にてつかめるようにします。</p> <p>② 合唱・・・他者とのささえ合いのなかで協力しあいながら音を出し、ハーモニーを作る喜びを分かち合います。</p>	<p>音楽室にて行います。</p> <p>課題・内容によって方法・流れは異なるため、その都度指示します。</p> <p>※合唱コンクール及び合唱コンクールの準備、練習を10時間実施する。</p>

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	歌唱:新しい仲間と声を合わせて歌おう「校歌・学園歌」 アルトリコーダー:奏法、アーティキュレーション 鑑賞「春」 楽典		歌唱:混声三部合唱に挑戦しよう アルトリコーダー:簡単なアンサンブルをしよう 鑑賞「魔王」 楽典		歌唱:合唱の表現を深めよう 鑑賞:「越天楽」

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽を構成している要素（楽典・楽式・音楽史・楽曲に関する基礎知識等）を理解している。</li> <li>演奏に必要な発声や楽器の扱い、ソルフェージュカ等の基礎的な力を身に付けている。</li> </ul>	課題・内容により、「学期末考査」・「各課題終了後行う実技試験」・「提出物による理解度」をもとに総合的に評価する。
思考力 判断力 表現力	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽史、楽曲に関する必要な基礎知識等を把握したうえで楽曲の鑑賞に取り組んでいる。</li> <li>対面している音楽に対し全面的に自己投入し、自己の持つ感性を開いて向き合い演奏及び鑑賞できる。</li> <li>演奏及び鑑賞において、自己を表現することができる。</li> </ul>	課題・内容により、「学期末考査」・「各課題終了後行う実技試験」・「提出物による理解度」・「鑑賞課題」終了後提出の「感想」をもとに総合的に評価する。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽に興味・関心を持ち音楽によって生活を明るく豊かなものにしようとする姿勢をもっている。</li> <li>対面している音楽に対し全面的に自己投入し、自己の持つ感性を開いて向き合う姿勢を持っている。</li> <li>授業で体験する内容について、その前と後の自己の変化（感じ方、技術等）に敏感に気づくことができる。</li> </ul>	「各回授業への取り組み」・「課題の提出状況及び内容」・「出席状況」から総合的に判断する。

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
中学1年	美術		S特選 特選	1	美術 I (光村図書)、美術資料集「東京の美術」秀学社

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指します。</p> <p>また生涯を通して作品制作や鑑賞活動を楽しむための基礎的な技法の習得を目指します。</p>	<p>1：題材の設定の趣旨説明 2：アイデアスケッチ 3：制作 4：鑑賞</p> <p>※文化祭の教科展示に向けて作品作成や準備として10時間分実施する。</p>

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	<ul style="list-style-type: none"> <li>●オリエンテーション</li> <li>●色彩学（色相環）</li> <li>●レタリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●デザイン画制作</li> <li>・趣旨説明</li> <li>・アイデアスケッチ</li> <li>・制作</li> <li>（文化祭「教科展示」に向けての準備）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●立体制作</li> <li>・趣旨説明</li> <li>・デザイン（設計図）</li> <li>・制作</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●立体制作</li> <li>・制作（仕上げ）</li> <li>・鑑賞</li> <li>（文化祭「教科展示」に向けての準備）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●デッサン</li> <li>●絵画鑑賞</li> </ul>

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象や事象を捉える造形的な視点について理解している</li> <li>・表現方法を工夫し、創造的に表している。</li> </ul>	作品及び提出物を基に評価する。
思考力 判断力 表現力	造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し、構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	作品及び提出物を基に評価する。
主体的に学習に取り組む態度	美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。	作品及び提出物の提出状況や、日々の授業に取り組む姿勢を基に評価する。

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
中学1年	保健体育		S特選 特選	3	中学校保健体育（大修館書店）

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
1.運動技能・体力の向上、健康の増進、安全に対する知識・判断力を習得する。 2.スポーツ大会を通してクラスの団結力を向上し、集団の中で果たすべき責任を全うする能力を身に付ける。 3.体育行事（TRF）を通して困難を前にたじろがない強い精神力を身に付ける。 4.器械運動では全身の巧緻性、平衡感覚、表現力を。陸上競技では全身の持久力、瞬発力を高める。 5.保健では、大人へと成長する心と身体のしくみを認識するとともに、健康な生活と疾病の予防および心身の機能の発達と心の健康について学ぶ。 6. 武道では、武道の特性や成り立ちを理解し、課題に応じた運動の取り組みができるようにする。	・体育、武道については、所定の場所（体育館・グラウンド・地下体育館）で実施する。※各種事情により取り扱う運動領域を変更する場合あり。  ・保健については教室で実施する。

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	【武道】 礼法・基本動作 【体育】 集団行動・ラジオ体操 スポーツ大会練習 【保健】 心身の機能の発達と心の健康	【武道】 足さばき・基本の素振り 【体育】 球技・器械運動 スポーツテスト 【保健】 心身の機能の発達と心の健康	【武道】 ・基本の面打ち・切り返し 木刀による基本技稽古法 【体育】 球技・器械運動 スポーツテスト 【保健】 心身の機能の発達と心の健康	【武道】 ・基本の面打ち・切り返し 木刀による基本技稽古法 【体育】 球技・器械運動 【保健】 心身の機能の発達と心の健康	【武道】 ・基本の面打ち・切り返し 木刀による基本技稽古法 【体育】 球技・器械運動・持久走 【保健】 心身の機能の発達と心の健康

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	・運動の楽しさや喜びを味わうために運動・体力の必要性について理解し、各領域の基本的な技能を身につけている。 ・健康な生活と疾病の予防および心身の機能の発達と心の健康について個人生活を中心として科学的に理解している。	各学期末に所定の場所で行う実技テストで到達度を確認し、判断する。保健分野は考查の素点を基に判断する。
思考力 判断力 表現力	・自己の能力に適した運動の課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。 ・心身の機能の発達と心の健康について、個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともにそれらを他者に伝えている。	考查、授業への取り組み、授業内発表、提出物をもとに総合的に判断する。
主体的に学習に取り組む態度	・自ら進んで運動を実践し、運動の楽しさや喜びを体得しようとする。また、共生の精神をもって他者とかかわるとともに、健康・安全に留意して積極的に学習に取り組んでいる。 ・心身の機能の発達と心の健康について、個人の健康や安全に関心をもち、自主的に学習に取り組もうとする。	授業への取り組み、提出物、授業内発表についての自己評価及び相互評価をもって総合的に判断する。

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
中学1年	技術・家庭	技術	S特選 特選	1	新編 新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology (東京書籍)

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>&lt;概要&gt; 生活に欠かせない科学技術や情報のしくみについて学びます。「ものづくり」や「コンピュータ」の学習を通して、技術が私たちの生活や社会でどのような役割を担い、機能しているのか考えていきます。</p> <p>&lt;目標&gt; ①ものづくりを通して材料の性質や加工のしくみを知り、生活の中での問題解決につなげる。 ②情報のしくみを理解し、コンピュータを使用して基本的な機能の操作を行えるようにする。</p>	<p>① 授業には、教科書、副教材、配布プリントを準備して臨むこと。 ② 実習の前には座学授業の説明を整理して理解して取り組みましょう。 ③ 実習時には必要な持ち物、注意事項を事前に連絡するので忘れずに準備すること。 ④ 実習授業の評価は授業中の取り組む姿勢が大きく影響します。 ⑤ 実習は班やまわりの人と協力しあい実施すること。 ⑥ 安全に作業するために指示や約束を守り、自分勝手な行動をしないこと。</p>

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	材料と加工に関する技術 ・木材の性質 ・木材の種類と構造	製品の製作 ・製図実習 ・木材加工実習	製品の製作 ・木材加工実習	情報に関する技術 ・情報と私たちの生活 ・情報通信ネットワークの利用	情報に関する技術 ・情報通信ネットワークと情報セキュリティ ・情報モラルと知的財産

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	生活や技術に関する基礎的な事項や生活と技術とのかかわりについて理解し、知識を身に付けている。また、生活に必要な基礎的な技術を身に付けている。	学期末考査、製作した作品の完成度、及び提出物をもとに総合的に評価する。
思考力 判断力 表現力	授業を通して自分の生活について見直し、課題をみつけ、その解決を目指して自分なりに工夫し創造して表現できる。	学期末考査、製作した作品の完成度、授業内発表、及び提出物をもとに総合的に評価する。
主体的に学習に取り組む態度	日々の生活関心をもち、生活を充実向上するために知識や技術を進んで身につけ実践しよう態度が見られる。	授業への取り組み、製作した作品への意欲（作品に取り組む態度、期日に向けての計画性）、及び授業内発表についての自己評価、及び相互評価をもとに総合的に評価する。

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
中学1年	技術・家庭	家庭	S特選 特選	1	新編 新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して（東京書籍）

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>【概要】 人として豊かに生きていくために必要なことを考えていきます。 また生活者としての基礎知識を身につけます。</p> <p>【目標】</p> <p>①生活に必要な基礎的知識を身につける。 ②知識を生活の中で活かす知恵を養う。 ③知恵を実行できる技術を習得する。 ④まわりの人と協力しながら行動することができる。</p>	<p>① 授業には、教科書・ノート・iPadを準備して臨むこと。 授業中にプリントをノートに貼るのではさみとのりを用意すること。 ② 実習の時には、一週間前に身支度・道具について連絡をするので、忘れものをしないこと。 ③ 実習授業の評価は、授業中の取り組む姿勢が大きく影響します。</p>

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭分野のガイダンス</li> <li>私たちの家庭と家庭生活</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>私たちの家庭と家庭生活</li> <li>食事の役割と中学生の栄養の特徴</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学生に必要な栄養素を満たす食事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学生に必要な栄養素を満たす食事</li> <li>調理実習</li> <li>手縫い基礎練習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>衣服の選択と手入れ</li> <li>被服製作 (手縫いの小物製作)</li> </ul>

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	生活や技術に関する基礎的な事項や生活と技術とのかかわりについて理解し、知識を身に付けている。また、生活に必要な基礎的な技術を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学期末考査</li> <li>製作した作品の完成度</li> </ul>
思考力 判断力 表現力	授業を通して自分の生活について見直し、課題を見つけ、その解決を目指して自分なりに工夫し創造して表現できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べ学習およびその発表</li> <li>レポート</li> <li>学年末考査</li> </ul>
主体的に学習に取り組む態度	日々の生活関心をもち、生活を充実向上するために知識や技術を進んで身につけ実践しよう態度が見られる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>製作した作品への意欲 (作品に取り組む態度、期日に向けての計画性)</li> <li>授業内発表についての自己評価</li> <li>提出物の状況</li> </ul>

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
中学1年	英語	英語① 英語②	S特選	5	NEW TREASURE ENGLISH SERIES STAGE I 3rd EDITION (Z会出版) Lentrance (アプリ) New Crown English Series I (三省堂) GRAMMAR TEXTBOOK Stage I GRAMMAR WORKBOOK Stage I

教科・科目の概要と目標

学習方法と流れ

<p>1. 英語の基礎学力・運用技能・学び続ける姿勢を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常的な話題について初歩的な文章や会話を理解し、自分の意見を簡単な英語で伝え合うことができるようにする。</li> <li>・ コミュニケーション能力の基礎となる語彙・音素・文法の知識・思考力を養い、読む・書く・聞く・話す(話し合う)基礎力を育成する。</li> <li>・ 言葉を考え、世界観を広げ・自分のことを発信する題材を活用し、週1で行われるNETによるOC(オーラルコミュニケーション)に繋げる。</li> </ul> <p>2. 文法は2年間で中学英語の全範囲と高校英語の初歩を先取りする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英検4級取得を目指す。</li> </ul>	<p>英語① New Treasure・Use&amp;Check・Key Pointを扱い4技能を養う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Lentranceを予め視聴し、語彙・文法の確認を行う。</li> <li>2. 授業で本文とKey Pointの理解と暗唱に努める。(Readはできたら)</li> <li>3. Use&amp;Checkで覚えた知識を活用し発信力を身につける。</li> <li>3. ICT機器(プロジェクターや音声教材)を用いて効率的に授業を進める。</li> <li>4. ロイロノートを用いて双方向の授業を行い思考力を高める。</li> <li>5. AI音読測定やミカン、スタサブを活用して家庭学習の充実を図る。</li> <li>6. スタサブEnglishを活用して英検対策を行う。</li> </ol> <p>英語② オリジナルテキストのTextbook/Workbookを扱い特に文法・作文力を養う。</p>
---	---

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	① Lesson 1～2 ② Dream / 1.～6. be動詞 主格・形容詞・冠詞 whatを含んだ疑問文	① Lesson 3～5 ② 7.～15. 一般動詞・3単現のS 複数形・命令文・can など	① Lesson 6～7 ② 16.～20. 時it・前置詞・接続詞 疑問詞を含んだ疑問文 現在進行形など	① Lesson 8～9 ② 21.～25. 規則動詞の過去形 不規則動詞の過去形 過去進行形など	① Lesson 10～11 ② 26.～29. be going to will 助動詞など

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	英語の音声や語彙・表現・文法・言語の基礎的な知識・機能・役割などを理解するとともに、これらの知識を「聞く」「読む」「話す」「書く」ことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けられているかに着目する。	定期考査及び授業内小テストやアクティビティ等
思考力判断力表現力	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて自ら考え、日常的な話題や社会的な話題について、その知識を応用して英語で簡単な情報や考えなどを理解したり、表現したり、伝えあったりすることができる力の涵養を測る。	定期考査及び授業内小テストやアクティビティ等
主体的に学習に取り組む態度	多様性の文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的・積極的に英語でコミュニケーションする姿勢とその能力を伸ばそうとしているかを見る。	授業内小テストやアクティビティ等

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
中学1年	英語	英語① 英語②	特選	5	NEW TREASURE ENGLISH SERIES STAGE 1 3rd EDITION (Z会出版) Lentrance (アプリ) New Crown English Series 1 (三省堂) GRAMMAR TEXTBOOK Stage 1 GRAMMAR WORKBOOK Stage 1

教科・科目の概要と目標

学習方法と流れ

<p>1. 英語の基礎学力・運用技能・学び続ける姿勢を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常的な話題について初歩的な文章や会話を理解し、自分の意見を簡単な英語で伝え合うことができるようにする。</li> <li>・ コミュニケーション能力の基礎となる語彙・音素・文法の知識・思考力を養い、読む・書く・聞く・話す(話し合う)基礎力を育成する。</li> <li>・ 言葉を考え、世界観を広げ・自分のことを発信する題材を活用し、週1で行われるNETによるOC(オーラルコミュニケーション)に繋げる。</li> </ul> <p>2. 文法は2年間で中学英語の全範囲と高校英語の初歩を先取りする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英検4級取得を目指す。</li> </ul>	<p>英語① New Treasure・Use&amp;Check・Key Pointを扱い4技能を養う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Lentranceを予め視聴し、語彙・文法の確認を行う。</li> <li>2. 授業で本文とKey Pointの理解と暗唱に努める。</li> <li>3. Use&amp;Checkで覚えた知識を活用し発信力を身につける。</li> <li>3. ICT機器(プロジェクターや音声教材)を用いて効率的に授業を進める。</li> <li>4. ロイロノートを用いて双方向の授業を行い思考力を高める。</li> <li>5. AI音読測定やミカン、スタサプを活用して家庭学習の充実を図る。</li> <li>6. スタサプEnglishを活用して英検対策を行う。</li> </ol> <p>英語② オリジナルテキストのTextbook/Workbookを扱い特に文法・作文力を養う。</p>
---	--

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	① Lesson 1～2 ② Dream / 1.～6. be動詞 主格・形容詞・冠詞 whatを含んだ疑問文	① Lesson 3～5 ② 7.～15. 一般動詞・3単現のS 複数形・命令文・can など	① Lesson 6～7 ② 16.～20. 時it・前置詞・接続詞 疑問詞を含んだ疑問文 現在進行形など	① Lesson 8～9 ② 21.～25. 規則動詞の過去形 不規則動詞の過去形 過去進行形など	① Lesson 10～11 ② 26.～29. be going to will 助動詞など

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	英語の音声や語彙・表現・文法・言語の基礎的な知識・機能・役割などを理解するとともに、これらの知識を「聞く」「読む」「話す」「書く」ことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けられているかに着目する。	定期考査及び授業内小テストやアクティビティ等
思考力判断力表現力	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて自ら考え、日常的な話題や社会的な話題について、その知識を応用して英語で簡単な情報や考えなどを理解したり、表現したり、伝えあったりすることができる力の涵養を測る。	定期考査及び授業内小テストやアクティビティ等
主体的に学習に取り組む態度	多様性の文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的・積極的に英語でコミュニケーションする姿勢とその能力を伸ばそうとしているかを見る。	授業内小テストやアクティビティ等



学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
中学1年	英語	英語②	αクラス	2	マーフィーのケンブリッジ英文法（中級編） 速読英単語 必修編（第8版改訂版）

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>1. ある一定以上の英語力を持って入学した生徒（αクラス分け試験合格者）に向けて、その英語力の維持・向上を図る。</p> <p>2. 特に帰国子女にとって苦手と言われる語彙・英文法に焦点をあてる。初歩的な内容から高校生レベルの英文法までを海外の留学生用のテキストを使用して、幅広く効果的に身に付ける。</p> <p>3. 受動的に説明を聞くだけでなく、自分の英語感覚と英文法理論を比較して英語力の再構築を積極的に図り活用することを目指す。</p>	<p>1. 授業において自分の英語の感覚を英文法の理論と比較を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英文法理論の解説や複数の例文に触れ、問題演習に取り組む。</li> <li>・自分の英語感覚・ルールと比較検討し、論理的に考察する。</li> <li>・時にアクティブラーニングの要素も取り入れ、生徒自ら英文法の説明を試みる。</li> </ul> <p>2. 宿題ではその単元の定着と発展を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な視点から問われた演習を行い、理解を確認・定着させる。</li> <li>・その単元に関する英作文を行い、運用方法を身に付ける。</li> <li>・時にさらなる理解を求めて研究を行い、発表する準備を行う。</li> </ul> <p>授業と宿題の繰り返しが基本となる。</p>

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	ケンブリッジ英文法 Unit 1 ～ Unit 7  速読英単語 必修編 Lesson 1-10	Unit 8 ～ Unit 16  Lesson 11-20	Unit 18 ～ Unit 28 (Unit 17-20は夏季課題)  Lesson 21-25	Unit 29 ～ Unit 39  Lesson 26-30	Unit 40 ～ Unit 48  Lesson 31-40

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	英語の音声や語彙・表現・文法・言語の基礎的な知識・機能・役割などを理解するとともに、これらの知識を「聞く」「読む」「話す」「書く」ことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けられているかに着目する。	授業内小テストやアクティビティ（音読・暗唱・英単語など）
思考力 判断力 表現力	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて自ら考え、日常的な話題や社会的な話題について、獲得した知識を応用して、英語で簡単な情報や考えなどを理解したり、表現したり、伝えあったりすることができる力の涵養を測る。	定期考査
主体的に学習に取り組む態度	多様性の文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的・積極的に英語でコミュニケーションする姿勢とその能力を伸ばそうとしているかを見る。	授業内小テストやアクティビティ（音読・暗唱・英単語など）

Grade	Subject	Course title	Class	Credits	Textbooks
Junior 1	English	English 1	Returnee	4	International English 5 Student Book International English 5 Workbook

Course Objectives	Course description
<ul style="list-style-type: none"> <li>• To use a wide range of literature to allow students to interact with cross-curricular topics and themes whilst developing their English literacy in a systematic manner.</li> <li>• To allow students to practice guided speaking and listening skills.</li> <li>• To complement the students language skills while at the same time helping them gain an understanding of the rich cultural diversity around the world.</li> <li>• To help students learn the skills required to do a self-evaluation of their learning. This skill is crucial in enabling the students to become independent learners.</li> </ul>	<p>Lessons will be presented using a variety of styles and techniques including the four skills of reading, writing, listening and speaking. The focus of the course is on oral communication.</p> <p>Examples of activities and styles that will be incorporated into most classes include:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Warm up activities / English games / Music and songs</li> <li>• Natural English</li> <li>• Pair work speaking activities</li> <li>• Group work</li> </ul>

	First semester mid-term	First semester final	Second semester mid-term	Second semester final	Third semester final
Schedule	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Unit 1: Who Am I</li> <li>• Writing an Autobiography</li> <li>• Unit 2: Foods, Feasts and Festivals</li> <li>• Describing Festivals</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Unit 3: Our Blue Planet</li> <li>• Write an adventure story</li> <li>• Unit 4: Stories and Comic Strips</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Unit 6: Sport and Health</li> <li>• Writing a diary</li> <li>• Unit 7: Making the News</li> <li>• Writing a news story</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Unit 5: World Change Makers</li> <li>• Writing a biography</li> <li>• Unit 10: Fabulous Future</li> <li>• Opinion Writing</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Unit 8: Flying High</li> <li>• Writing a suspense story</li> <li>• Unit 9: Tales and Legends</li> <li>• Writing a traditional</li> </ul>

Criterion	Evaluation	Feedback to submitted tasks(quizzes,essays,etc)
Input	To develop a practical command of English which would allow students to understand English and express themselves in English, understanding the unique features of English, such as organizing mutually related grammatical items in a cohesive manner.	Tests, quizzes, essays, etc.
Output	To have students engage in language activities carried out with familiar language-use situations and functions of language taken into account.	Tests, quizzes, essays, etc.
Attitude	To comprehensively cultivate communication abilities such as listening, speaking, reading and writing, enhancing the understanding of various ways of viewing and thinking.	Tests, quizzes, essays, etc.